

法 学 第 9 0 5 号

平成 30 年 2 月 19 日

各 私 立 学 校 長 様
(小・中・高・特)

岩手県総務部法務学事課私学・情報公開課長

平成 30 年度外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修の実施に
ついて

このことについて、別添のとおり通知がありましたので、お知らせします。

なお、参加を希望される場合は、別紙「推薦名簿」に必要事項を記入の上、平成 30
年 4 月 4 日（水）までに当課宛て提出願います。

また、期限までに提出がない場合は、希望なしとして取り扱うこと、応募状況によっ
ては希望に添えない場合があることを申し添えます。

【担当】私学振興担当 半田

電話 019-629-5041 FAX019-629-5049

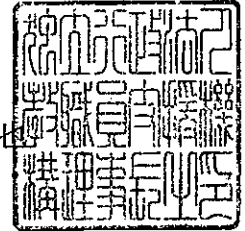
メールアドレス: AH0007@pref.iwate.jp

独教次調第10号
平成30年2月16日

各都道府県知事
殿
附属学校を置く各国立大学法人の長

独立行政法人教職員支援機構

理事長 高岡 信也



(印影印刷)

平成30年度外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修の
実施について（依頼）

日頃から、独立行政法人教職員支援機構の研修事業に御協力いただき、誠にありがとうございます。

標記の研修につきまして、別添の実施要項に基づき実施することといたしました。

ついては、受講者の推薦がある場合は、別添の実施要項中「6 受講者(3)推薦手続」によらず、別紙「推薦名簿」を平成30年4月11日(水)までに、電子メールにて下記宛て御提出ください。実施要項、推薦名簿等は、当機構ホームページ (<http://www.nits.go.jp/> →研修・セミナー→③グローバル化に対応する指導者養成研修→外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修) よりダウンロード可能となっております。

また、本研修は、各地域において、本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的としております。貴職におかれましては本研修の目的を御理解の上、適切な方を御推薦いただくとともに、受講者の成果活用に御配慮いただきますよう、よろしく申し上げます。受講者には、研修終了1年後に成果活用状況について調査することとしております。

【本件担当】

独立行政法人教職員支援機構

次世代型教育推進センター 一ツ橋事務所

調査企画課 調査企画係（横澤、唐澤、静田）

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-1-2

学術総合センター11F

TEL 03-4212-8450

FAX 03-4212-8466

E-mail:kikaku@nits.go.jp



(別添)

平成30年度外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修 実施要項

1 目 的

日本語指導が必要な児童生徒等の増加等を踏まえ、これらの児童生徒に対し適応指導・日本語指導を行うとともに、関係機関と連携し、受入れ体制を整備するなど、学校全体できめ細かな対応を図ることが重要である。

本研修では、学校全体での外国人児童生徒の受入れ体制の整備、関係機関との連携、日本語指導の方法等について、必要な知識等を習得させ、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者の養成を図る。

2 主 催 独立行政法人教職員支援機構、三重県教育委員会

3 共 催 文部科学省

4 期 間 【管理者用コース】

平成30年6月19日(火)～平成30年6月20日(水)

【日本語指導者用コース】

平成30年6月19日(火)～平成30年6月22日(金)

5 会 場 三重県総合教育センター

〒514-0007

三重県津市大谷町12番地

TEL:059-226-3428

6 受講者

(1) 受講資格

【管理者用コース】

- ① 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの外国人児童生徒等教育担当者並びにこれらに準じる者
- ② 小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭であって、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者として活動を行う者
- ③ 当機構の修了証書をもって単位認定を行う(予定を含む)教職大学院の学生

【日本語指導者用コース】

- ① 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの外国人児童生徒等教育担当者並びにこれらに準じる者
- ② 外国人児童生徒等に対する日本語指導等について経験を有する小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校等の主幹教諭、指導教諭及び教諭等であって、各学校や地域における本研修の内容を踏まえた研修のマネジメントを推進する指導者として活動を行う者
- ③ 当機構の修了証書をもって単位認定を行う(予定を含む)教職大学院の学生

(2) 推薦人数

【管理者用コース】

各都道府県（中核市分を含む）・各指定都市においては、上記受講資格①に該当するものを2名以上、あるいは①、②に該当する者それぞれ1名以上とする。

なお、各都道府県知事部局所管及び附属学校を置く各国立大学法人、市町村立及び学校組合立高等学校を置く各市町村及び学校組合教育委員会、教職大学院を設置する各国立大学法人、教職大学院を設置する各私立大学については、推薦人数を設けない。

【日本語指導者用コース】

各都道府県（中核市分を含む）においては上記受講資格に該当する者2名以上、各指定都市においては1名以上とする。

なお、各都道府県知事部局所管及び附属学校を置く各国立大学法人、市町村立及び学校組合立高等学校を置く各市町村及び学校組合教育委員会、教職大学院を設置する各国立大学法人、教職大学院を設置する各私立大学については、推薦人数を設けない。

(3) 推薦手続

各都道府県・指定都市教育委員会において推薦者を取りまとめ、当機構「研修情報登録システム」（別添「受講者推薦登録業務操作マニュアル」参照）により、平成30年4月11日（水）までに推薦を行う。

また、受講希望がない場合であっても、担当者情報を登録すること。

(4) 受講者の決定

各都道府県、指定都市教育委員会からの推薦に基づき、当機構が決定し通知する。

7 研修内容

別紙日程表のとおりとする。演習や協議については、20名の単位（ユニット）※を基本として取り組む。

※ 当機構では、実施する全ての研修、特にその中の演習や協議等において、受講者による主体的・協働的な学びを実施していくため、20名の単位（ユニット）を基本として取り組んでいます。

＜＜コース別演習内容＞＞

(1) 【管理者用コース】は、外国人児童生徒等の受入れ体制について、管理者としての役割や関係機関との連携の在り方の理解を深めるなどの具体的な対応について行う。

(2) 【日本語指導者用コース】は、「初期指導プログラム」「中期・後期指導プログラム」及び「教科指導実践プログラム」に分け、基本的に受講者の希望を参考に行う。それぞれのプログラムの内容は以下のとおりである。

○「初期指導プログラム」

来日直後等の児童生徒に対する日本語指導を中心とした内容

○「中期・後期指導プログラム」

日常会話ができる児童生徒を対象とした「読む力・書く力」を高めるための日本語指導を中心とした内容

○「教科指導実践プログラム」

日常的な会話はある程度できるが、学習活動への参加が難しい児童生徒に対するJSLカリキュラムを活用した「日本語と教科の統合学習」を中心とした内容（「国語」「社会（地理・歴史・公民を含む）」「算数・数学」「理科」のうち希望する教科をもとに研修を行うが、班編成の関係上第1希望に沿えない場合がある。）

○実践先進校視察希望コースについて【日本語指導者用コースの受講者対象】

Aコース（教科指導）四日市立笹川東小学校又は同市立笹川西小学校

四日市市における外国人児童受入拠点校である。国際教室を設置し取り出し授業を行っており、個に応じた指導を実施するとともに在籍学級ではJSLカリキュラムを活用した授業を行っている。【定員 40名】

Bコース（進路保障及び中高連携）三重県立飯野高等学校

外国人生徒等に係る特別枠入学者選抜（10名）を実施しており、英語コミュニケーション科では外国人生徒が半数以上を占めている。外国人生徒の進路保障に積極的に取り組むとともに、外国人生徒教育の拠点高等学校として実践を重ねている。【定員 25名】

Cコース（初期指導）松阪市教育委員会 初期適応支援教室「いっぽ」

松阪市内の小中学校に在籍する日本語指導が必要な外国人児童生徒を対象に、約4～6か月間、個別指導を行っている。【定員 15名】

※実践先進校視察希望コースは、第2希望までを必ず登録すること。

※Aコースについて、どの学校を視察するかは、三重県教育委員会において調整を行う。

※受講者について、推薦状況によっては当機構及び三重県教育委員会において調整を行う。

8 その他

（1）受講者は、本研修を受講するに当たって、以下の資料を事前に読む、及び動画を視聴しておくこと。

・「文部科学省ウェブサイト 特別の教育課程に係る通知」

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/1341903.htm

・「外国人児童生徒受入れの手引き」

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/002/1304668.htm

・「外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメント DLA」

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/1345413.htm

・「外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメント DLA

《使い方映像マニュアル》」

<http://www.tufs.ac.jp/blog/ts/g/cemmer/news/jsl-dla.html>（動画）

・「学校教育におけるJSLカリキュラム開発について（最終報告）小学校編、中学校編」

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/001.htm#a04

手元にない場合、文部科学省ホームページ（アドレス等参照）に掲載されているので、参照すること。

なお、本研修を実施するに当たり、事前に課題を出す予定である。内容、提出期限等詳細については、受講者決定に併せて通知する。

(2) 所定の課程を修了した者には、修了証書を授与する。

(3) 本研修終了時に受講者アンケート等を行う。

また、研修終了から一定期間（約1年）経過後に、研修成果の活用について、受講者に対するアンケート調査を行う。

(4) 本研修は、原則として宿泊研修とし、宿泊の手配等については、各自で行う。

(5) 班編成の参考とするため、＜集住地域＞と＜分散地域＞について、以下の基準を参考とし、推薦名簿に記入すること。ただし、教職大学院の学生については、記入は不要とする。

＜集住地域＞

- ・校長、教頭、教諭等の場合：自分の学校に外国人児童生徒が10名以上在籍する。
- ・指導主事の場合：自分の担当地域に外国人児童生徒が10名以上在籍する学校・地域が複数あり、偏在している。

＜分散地域＞

- ・校長、教頭、教諭等の場合：自分の学校に外国人児童生徒が数名在籍する。
- ・指導主事の場合：自分の担当地域に外国人児童生徒が在籍する学校が複数あるが、1校当たりの在籍数は数名である。あるいは外国人児童生徒が在籍する学校も数校（在籍数も少ない）で、点在している。

平成30年度外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修 日程表 (案)

(別紙)

【第1日目】

| 8:45 9:15 9:40 10:20 10:30 12:00 13:00 15:50 16:00 17:00 | | | | |
|--|---------------|--|---|--|
| 6月19日(火) | 開講式・オリエンテーション | 施設説明 「外国人児童生徒等に対する文部科学省の施策について」 講師 | 講義1 「外国人児童生徒等教育の現状と課題」 講師 | 講義2・事例協議1 「子どものための日本語教育プログラム—個別の指導計画を立てるために—」 【講義】講師 【事例発表】 |
| | 受付 | 休 憩 | 昼 食 | 休 憩 |
| | | | 目的： 学校現場における外国人児童生徒等の受入れ状況や指導体制について等、外国人児童生徒等の生活及び学習上の課題等を社会的、文化的、心理的側面から理解し、指導や支援の在り方について学ぶ。 | 目的： 学校で実施されている日本語プログラムについて知り、「特別の教育課程」の導入が必要となる「個別の指導計画」の立て方を学び、小中学校の事例をもとに検討する。 |
| | | | | 目的： 班別に情報交換を行うことで、外国人児童生徒等教育の課題の明確化、共有化を図るとともに、本研修での目的を明確にする。 |

【第2日目】

| 8:30 9:20 9:35 11:50 12:50 14:00 14:10 16:30 16:45 17:00 | | | | |
|--|---|---|--|--|
| 6月20日(水) | 開講式 | 事例協議2 「～指導・支援体制における連携と協働～外国人児童生徒等教育の先進的な取組」 【事例発表】 【進行】指導助言者 | 講義3 「外国人児童生徒等の教育に関し、体制整備とその実施」 講師 | 講義4 「外国人児童生徒等の受入れ体制における課題解決策の検討」 指導助言者 |
| | 目的： 外国人児童生徒等の教育に関し、体制整備とその実施について学ぶ。 | 目的： 外国人児童生徒等の受入れについて先進的な地域の取組の理解を深める。 | 目的： 外国人児童生徒等の受入れ体制について情報を共有し、今後の課題解決への糸口を探る。 | 目的： 外国人児童生徒等の受入れ体制における課題解決策の検討 |
| | 実践先遣校視察 Aコース (四日市市立菟川東小学校又は同市立菟川西小学校) 8:00 四日市駅 (集合) Bコース (三重県立飯野高等学校) 8:15 白子駅 (集合) Cコース (初期研修支援教室「いっぽ」) 8:15 松阪駅 (集合) | 休 憩 | 昼 食 | 休 憩 |
| | 目的： 三重県内の外国人児童生徒等の指導体制や教育実践で先進的な取り組みを行っている学校や支援教室を訪問し、初期段階の連携支援・日本語指導の実際や、「JSLカリキュラム」による教科と日本語の統合学習の授業を参観する。フィールド(現場)での観察や情報収集を通して、地域の実際に応じた支援の仕組みや指導内容・方法について学ぶ。 | | | 目的： 文部科学省開発の「JSL対話型アセスメント」の考え方やその日本語測定方法の概要を知り、日本語指導の内容や方法の決定への生かし方について学ぶ。 |
| | | | | 目的： DLA (日本語能力測定方法) について、実際に体験しながら理解を深める。 |

※日程等について変更することがあります。

【第3日目】

| 8:30 | 10:30 | 10:45 | 12:00 | 13:00 | 17:00 |
|---|---|---|--|---|---|
| <p>【第3日目】</p> <p>日本語指導者用コース (3プログラム共通)</p> <p>講義 「日本語指導の方法と授業づくり～初期指導・中期指導・教科指導～」</p> <p>講師</p> | <p>日本語指導者用コース [初期指導プログラム 講義・演習]</p> <p>講義 「日本語初期指導における授業づくり」</p> <p>講師・指導助言者</p> <p>目的：来日直後の外国人児童生徒等に対する初期段階の日本語プログラム「サバイバル日本語」「日本語基礎(文字表記・語彙・文型等)」の内容と指導方法について知り、事例をもとに授業計画の立て方、授業運営上の留意点について学ぶ。</p> | <p>日本語指導者用コース [中期・後期指導プログラム 講義・演習]</p> <p>講義 「日本語中期・後期指導における授業づくり」</p> <p>講師・指導助言者</p> <p>目的：日本語の「読む」「書く」技能を中心とした活動の学習指導計画を作成し、中期・後期段階の内容の共通でプログラム内容を共有</p> | <p>日本語指導者用コース [教科指導実践プログラム 講義・演習]</p> <p>講義 「JSLカリキュラムの授業づくり」</p> <p>講師・指導助言者</p> <p>目的：JSLカリキュラムの学習指導計画を作成し、教科と日本語を統合した授業についての理解を深め、授業を実践する力を高める。</p> | <p>日本語指導者用コース [3プログラム共通]</p> <p>全体発表・協議 「日本語指導の実践～全体発表・協議～」</p> <p>指導助言者</p> <p>目的：各プログラムで検討した学習指導計画等について、全体での発表やディスカッションを通して、言語習得・認知発達・社会参加などの側面から検討し、外国人児童生徒等の日本語教育の内容と方法について更に理解を深める。また、自身の環境での取り組みに照らし、改善の方向性や方法を具体化する。</p> | <p>日本語指導者用コース [3プログラム共通]</p> <p>全体発表・協議 「日本語指導の実践～全体発表・協議～」</p> <p>指導助言者</p> <p>目的：各プログラムで検討した学習指導計画等について、全体での発表やディスカッションを通して、言語習得・認知発達・社会参加などの側面から検討し、外国人児童生徒等の日本語教育の内容と方法について更に理解を深める。また、自身の環境での取り組みに照らし、改善の方向性や方法を具体化する。</p> |

【第4日目】

| 8:30 | 10:30 | 10:45 | 12:00 | 13:00 | 14:45 | 15:00 |
|---|--|---|--|---|---|---|
| <p>【第4日目】</p> <p>日本語指導者用コース (3プログラム共通)</p> <p>全体発表・協議 「日本語指導の実践～全体発表・協議～」</p> <p>指導助言者</p> <p>目的：各プログラムで検討した学習指導計画等について、全体での発表やディスカッションを通して、言語習得・認知発達・社会参加などの側面から検討し、外国人児童生徒等の日本語教育の内容と方法について更に理解を深める。また、自身の環境での取り組みに照らし、改善の方向性や方法を具体化する。</p> | <p>日本語指導者用コース [3プログラム共通]</p> <p>講義 「日本語初期指導における授業づくり」</p> <p>講師・指導助言者</p> <p>目的：来日直後の外国人児童生徒等に対する初期段階の日本語プログラム「サバイバル日本語」「日本語基礎(文字表記・語彙・文型等)」の内容と指導方法について知り、事例をもとに授業計画の立て方、授業運営上の留意点について学ぶ。</p> | <p>日本語指導者用コース [中期・後期指導プログラム 講義・演習]</p> <p>講義 「日本語中期・後期指導における授業づくり」</p> <p>講師・指導助言者</p> <p>目的：日本語の「読む」「書く」技能を中心とした活動の学習指導計画を作成し、中期・後期段階の内容の共通でプログラム内容を共有</p> | <p>日本語指導者用コース [教科指導実践プログラム 講義・演習]</p> <p>講義 「JSLカリキュラムの授業づくり」</p> <p>講師・指導助言者</p> <p>目的：JSLカリキュラムの学習指導計画を作成し、教科と日本語を統合した授業についての理解を深め、授業を実践する力を高める。</p> | <p>日本語指導者用コース [3プログラム共通]</p> <p>全体発表・協議 「日本語指導の実践～全体発表・協議～」</p> <p>指導助言者</p> <p>目的：各プログラムで検討した学習指導計画等について、全体での発表やディスカッションを通して、言語習得・認知発達・社会参加などの側面から検討し、外国人児童生徒等の日本語教育の内容と方法について更に理解を深める。また、自身の環境での取り組みに照らし、改善の方向性や方法を具体化する。</p> | <p>日本語指導者用コース [3プログラム共通]</p> <p>全体発表・協議 「日本語指導の実践～全体発表・協議～」</p> <p>指導助言者</p> <p>目的：各プログラムで検討した学習指導計画等について、全体での発表やディスカッションを通して、言語習得・認知発達・社会参加などの側面から検討し、外国人児童生徒等の日本語教育の内容と方法について更に理解を深める。また、自身の環境での取り組みに照らし、改善の方向性や方法を具体化する。</p> | <p>日本語指導者用コース [3プログラム共通]</p> <p>全体発表・協議 「日本語指導の実践～全体発表・協議～」</p> <p>指導助言者</p> <p>目的：各プログラムで検討した学習指導計画等について、全体での発表やディスカッションを通して、言語習得・認知発達・社会参加などの側面から検討し、外国人児童生徒等の日本語教育の内容と方法について更に理解を深める。また、自身の環境での取り組みに照らし、改善の方向性や方法を具体化する。</p> |

※日曜等について変更することがあります。

平成30年度外国人児童生徒等に対する日本語指導 指導者養成研修 推薦名簿

| 推薦 コース | 推薦 職位 | 氏 名 | フリガナ | 年齢 (※注1) | 所 属 | | 所属機関種別 (※注3) | 学校種 (※注4) | 電話番号 (※注5) | 班別 (※注6) | 日本語指導 所へのプ ログラム選 択 (※注7) | 経験年数 (※注8) | 現在の担当 指導教員 | | 備考 | |
|-------------------------------------|----------|-----|------|-------------|-----|--------------|-----------------|--------------|---------------|-------------|--------------------------------------|---------------|---------------|---------------|----|----------------|
| | | | | | 名 称 | 職 名 (※注2) | | | | | | | 住 所 | 第1希望 (※注9) | | 第2希望 (※注10) |
| 管理 者用 コース | 1 | | | | | | | | | | | (1) | | | | |
| | 2 | | | | | | | | | | | (2) | | | | |
| 日 本 語 指 導 者 用 コース | 1 | | | | | | | | | | | (1) | | | | |
| | 2 | | | | | | | | | | | (2) | | | | |
| 記入 例 | 1 | | | | | | | | | | | (1) 5年 | | | | |
| | 2 | | | | | | | | | | | (2) 3年 | | | | |
| | 1 | | | | | | | | | | | (1) 3年 | | | | |
| | 2 | | | | | | | | | | | (2) 1年 | | | | |

「集住」地域と「分散」地域について（参考）

※班別講習の際、同じ状況の方同士で時間を決めていただくための班分けの目安とします。以下、の基準を参考とし、記入してください。

＜集住地域＞
校長、教頭、教諭等の場合：自分の学校に外国人児童生徒が10名以上在籍する学校・地域が複数あり、現在している。

指導主事の場合：自分の担当地域に外国人児童生徒が10名以上在籍する学校・地域が複数あり、現在している。

＜分散地域＞
校長、教頭、教諭等の場合：自分の学校に外国人児童生徒が数名在籍する。

指導主事の場合：自分の担当地域に外国人児童生徒が在籍する学校が複数あるが、1校当たりの在籍数は数名である。あるいは外国人児童生徒が在籍する学校も複数（在籍数も少ない）で、現在している。

注1) 年齢は、平成30年4月1日現在で記入してください。

注2) 教員大学院の学生に当たっては「職名」欄には、「大学院」と記入してください。

注3) 教員大学院の学生に当たっては「所属機関種別」欄には、「大学院」と記入してください。

注4) 「学校種別」欄には、「日本語指導者用コース」の方のみ記入してください。小学校教員は「小」、中学校及び中等教育学校（前期課程）の教員は「中」、高等学校及び中等教育学校（後期課程）の教員は「高」と記入してください。指導主事等は希望する学校種別を記入してください。

注5) 「電話番号」欄には、事前提出書類の記載の順に、当該機関が受領する電話番号を記入してください。

注6) 「班別講習」では、班名別（指導主事、校長、教頭、教諭）にそれぞれ集住地域と分散地域に分かれて、地域における取組について演習を行います。「班別講習1希望班」欄には、班を編制する際の参考とします。また、「班別講習2希望班」欄には、班を編制する際の参考とします。ただし、教員大学院の学生については、記入は不要とします。（右枠参照）

注7) 「日本語指導者用コース」のプログラム選択欄には、「初期指導プログラム」を希望する場合は①を、「中期・後期指導プログラム」を希望する場合は②、「教科指導実践プログラム」を希望する場合は③を記入してください。なお、②「中期・後期指導プログラム」については、一定の指導経験を有する方の参加が望ましい。

注8) 「経験年数」欄には、「日本語指導者用コース」の方は日本語指導年数を記入してください。

注9) 「管理職用コース」の方は、以下のうち、①又は②に該当する年数を記入してください。

①学校の管理職として日本語指導に必要な児童生徒等に関わった在籍年数。

②教育委員会等で日本語指導に必要な児童生徒等に関する業務を担当した年数。

注10) 小学校教員以外の方は、現在担当している指導教科を記入してください。

注11) 「教科指導実践プログラム」の班別講習では、教科毎に分かれて指導案を作成します。「教科指導実践プログラム希望班」欄には、班を編制する際の参考とします。また、「教科指導実践プログラム希望班」欄には、班を編制する際の参考とします。ただし、教員大学院の学生については、記入は不要とします。（右枠参照）

注12) 「日本語指導者用コース」のプログラム選択欄には、「初期指導プログラム」を希望する場合は①を、「中期・後期指導プログラム」を希望する場合は②、「教科指導実践プログラム」を希望する場合は③を記入してください。なお、②「中期・後期指導プログラム」については、一定の指導経験を有する方の参加が望ましい。

注13) 「班別講習」では、班名別（指導主事、校長、教頭、教諭）にそれぞれ集住地域と分散地域に分かれて、地域における取組について演習を行います。「班別講習1希望班」欄には、班を編制する際の参考とします。また、「班別講習2希望班」欄には、班を編制する際の参考とします。ただし、教員大学院の学生については、記入は不要とします。（右枠参照）

注14) 「日本語指導者用コース」のプログラム選択欄には、「初期指導プログラム」を希望する場合は①を、「中期・後期指導プログラム」を希望する場合は②、「教科指導実践プログラム」を希望する場合は③を記入してください。なお、②「中期・後期指導プログラム」については、一定の指導経験を有する方の参加が望ましい。

注15) 「班別講習」では、班名別（指導主事、校長、教頭、教諭）にそれぞれ集住地域と分散地域に分かれて、地域における取組について演習を行います。「班別講習1希望班」欄には、班を編制する際の参考とします。また、「班別講習2希望班」欄には、班を編制する際の参考とします。ただし、教員大学院の学生については、記入は不要とします。（右枠参照）

注16) 「日本語指導者用コース」のプログラム選択欄には、「初期指導プログラム」を希望する場合は①を、「中期・後期指導プログラム」を希望する場合は②、「教科指導実践プログラム」を希望する場合は③を記入してください。なお、②「中期・後期指導プログラム」については、一定の指導経験を有する方の参加が望ましい。

注17) 「班別講習」では、班名別（指導主事、校長、教頭、教諭）にそれぞれ集住地域と分散地域に分かれて、地域における取組について演習を行います。「班別講習1希望班」欄には、班を編制する際の参考とします。また、「班別講習2希望班」欄には、班を編制する際の参考とします。ただし、教員大学院の学生については、記入は不要とします。（右枠参照）

注18) 「日本語指導者用コース」のプログラム選択欄には、「初期指導プログラム」を希望する場合は①を、「中期・後期指導プログラム」を希望する場合は②、「教科指導実践プログラム」を希望する場合は③を記入してください。なお、②「中期・後期指導プログラム」については、一定の指導経験を有する方の参加が望ましい。

注19) 「班別講習」では、班名別（指導主事、校長、教頭、教諭）にそれぞれ集住地域と分散地域に分かれて、地域における取組について演習を行います。「班別講習1希望班」欄には、班を編制する際の参考とします。また、「班別講習2希望班」欄には、班を編制する際の参考とします。ただし、教員大学院の学生については、記入は不要とします。（右枠参照）

注20) 「日本語指導者用コース」のプログラム選択欄には、「初期指導プログラム」を希望する場合は①を、「中期・後期指導プログラム」を希望する場合は②、「教科指導実践プログラム」を希望する場合は③を記入してください。なお、②「中期・後期指導プログラム」については、一定の指導経験を有する方の参加が望ましい。

注21) 「班別講習」では、班名別（指導主事、校長、教頭、教諭）にそれぞれ集住地域と分散地域に分かれて、地域における取組について演習を行います。「班別講習1希望班」欄には、班を編制する際の参考とします。また、「班別講習2希望班」欄には、班を編制する際の参考とします。ただし、教員大学院の学生については、記入は不要とします。（右枠参照）

注22) 「日本語指導者用コース」のプログラム選択欄には、「初期指導プログラム」を希望する場合は①を、「中期・後期指導プログラム」を希望する場合は②、「教科指導実践プログラム」を希望する場合は③を記入してください。なお、②「中期・後期指導プログラム」については、一定の指導経験を有する方の参加が望ましい。

注23) 「班別講習」では、班名別（指導主事、校長、教頭、教諭）にそれぞれ集住地域と分散地域に分かれて、地域における取組について演習を行います。「班別講習1希望班」欄には、班を編制する際の参考とします。また、「班別講習2希望班」欄には、班を編制する際の参考とします。ただし、教員大学院の学生については、記入は不要とします。（右枠参照）

注24) 「日本語指導者用コース」のプログラム選択欄には、「初期指導プログラム」を希望する場合は①を、「中期・後期指導プログラム」を希望する場合は②、「教科指導実践プログラム」を希望する場合は③を記入してください。なお、②「中期・後期指導プログラム」については、一定の指導経験を有する方の参加が望ましい。

※この推薦名簿は、本研修への受講推薦に際し、都道府県市教育委員会が使用するものであり、それ以外での目的で使用しません。

外国人児童生徒等受入れ体制の概要

【管理者用コース課題】

| | | | |
|-------|--------|-----------|----|
| 受講者番号 | 都道府県等名 | 教育委員会・学校名 | 氏名 |
|-------|--------|-----------|----|

メールアドレス (受講者同士の連絡用に、差支えない範囲でご記入ください)

1 地域 (学校) における外国人児童生徒等の動向・特徴
 学校、都道府県・市町村教育委員会共通 2018年5月1日現在

| | | | |
|--------------|-----------------------|-----------------|-------------------------|
| 外国人児童生徒数 (a) | 日本語指導が必要な外国人児童生徒数 (b) | (c) = (b) / (a) | 日本語指導が必要な日本国籍の児童生徒数 (d) |
| 人 | 人 | % | 人 |

備考欄：滞在年数など

| | | | | | | |
|------|--------|-----|--------|-------|-----------|----|
| 母語 | ポルトガル語 | 中国語 | フィリピン語 | スペイン語 | その他 (語など) | 合計 |
| 小学生数 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 |
| 中学生数 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 |

※外国人児童生徒数は日本国籍で外国にルーツを持つ子ども (国際結婚家庭の子どもなど) も含みます。

2 地域 (学校) における外国人児童生徒等の受入れ体制 (指導体制) の概要
 外国人児童生徒等指導のための教員加配数 () 人・・・常勤のみ
 (組織図 又は 箇条書きで記述してください)

3 (他の機関と連携を図っている場合) 連携先の機関・団体名及びお互いの具体的な役割や関係

4 現在の受入れ体制 (指導体制) が抱えている課題

5 課題に対する改善案
 (上記課題を改善するための考えを記述してください)

6 その他
 (他の受講者や講師から助言を得たいことがあれば、記述してください)

日本語指導等の概要

【日本語指導者用コース課題】

| | | | | | | |
|---|-----------------------|-----------------|-------------------------|-------|----------|----|
| 受講者番号 | 都道府県等名 | 教育委員会・学校名 | 氏名 | | | |
| メールアドレス（受講者同士の連絡用に、差支えない範囲でご記入ください） | | | | | | |
| 1 学校及び地域の概要 | | | | | | |
| 2 日本語指導の必要な外国人児童生徒等の動向・特徴 | | | | | | |
| 学校、都道府県・市町村教育委員会共通 2018年5月1日現在 | | | | | | |
| 外国人児童生徒数 (a) | 日本語指導が必要な外国人児童生徒数 (b) | (c) = (b) / (a) | 日本語指導が必要な日本国籍の児童生徒数 (d) | | | |
| 人 | 人 | % | 人 | | | |
| 備考欄：滞在年数など | | | | | | |
| 母語 | ポルトガル語 | 中国語 | フィリピン語 | スペイン語 | その他(語など) | 合計 |
| 小学生数 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 |
| 中学生数 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 |
| ※外国人児童生徒数は日本国籍で外国にルーツを持つ子ども（国際結婚家庭の子どもなど）も含みます。 | | | | | | |
| 3 日本語指導の状況 | | | | | | |
| ① 指導体制・形態（専任教員、指導協力者の配置・取り出し、T・T等） | | | | | | |
| ② 指導内容 | | | | | | |
| 4 使用教材 | | | | | | |
| ① 自主教材 | | | | | | |
| ② 市販の教材（主なもの2点） | | | | | | |
| 5 日本語指導上の課題（現場で取り組んできたこと、その上で何が課題か） | | | | | | |

「特別の教育課程」による日本語指導の取り組み状況等

国の施策として平成 26 年度に「特別の教育課程」の制度が導入されました。そこで、皆さんの現場では、「特別の教育課程」をどのように理解し、どのように実施しているか、また、実施していない場合は、どのような課題があるのかをお聞かせください。みなさんの回答を班別演習の参考資料にしたいと思います。

| 受講者番号 | 都道府県等名 | 教育委員会・学校名 | 氏名 |
|--|--------|-----------|----|
| メールアドレス(受講者同士の連絡用に、差支えない範囲でご記入ください) | | | |
| <p>1 「特別の教育課程」の実施状況について(該当する方を○で囲んでください)</p> <p style="text-align: center;">実施している 実施していない</p> <p>2 1において「実施している」を選択した方は、以下の事項について御回答ください。</p> <p>(1) どのように実施しているのか具体的に教えてください。</p> <p>(2) 「特別の教育課程」を実施したことで、どのような点が変わりましたか。</p> <p>3 1において、「実施していない」を選択した方は、以下の事項について御回答ください。</p> <p>(1) 実施していない理由や課題等について教えてください。</p> <p>(2) 今後の実施の見通しについて教えてください。</p> <p>4 「特別の教育課程」についての質問等がございましたら、お書きください。</p> <p>5 日本語の力の把握に、どのようにDLAを利用していますか(実施時期や頻度、実施者や実施後の活用方法)。利用していない場合、どのような方法で日本語の力を把握していますか。</p> | | | |

※A 4判1頁にまとめて記入してください。本研修における資料として、管理者用コースの受講者全員に配付します。

「特別の教育課程」による日本語指導の取り組み状況等

国の施策として平成 26 年度に「特別の教育課程」の制度が導入されました。そこで、皆さんの現場では、「特別の教育課程」をどのように理解し、どのように実施しているか、また、実施していない場合は、どのような課題があるのかをお聞かせください。みなさんの回答を班別演習の参考資料にしたいと思います。

| 受講者番号 | 都道府県等名 | 教育委員会・学校名 | 氏名 |
|---|--------|-----------|----|
| メールアドレス(受講者同士の連絡用に、差支えない範囲でご記入ください) | | | |
| <p>1 「特別の教育課程」の実施状況について(該当する方を○で囲んでください)</p> <p style="text-align: center;">実施している 実施していない</p> <p>2 1において「実施している」を選択した方は、以下の事項について御回答ください。</p> <p>(1) どのように実施しているのか具体的に教えてください。</p> <p>(2) 「特別の教育課程」を実施したことで、どのような点が変わりましたか。</p> <p>3 1において、「実施していない」を選択した方は、以下の事項について御回答ください。</p> <p>(1) 実施していない理由や課題等について教えてください。</p> <p>(2) 今後の実施の見通しについて教えてください。</p> <p>4 「特別の教育課程」についての質問等がございましたら、お書きください。</p> <p>5 DLAは実施していますか。実施している場合は誰が、いつ、どのように実施していますか。</p> | | | |

※A 4判1頁にまとめて記入してください。本研修における資料として、日本語指導者用コースの受講者全員に配付します。